

「環境破壊と貧困・孤立のパーソナル社会」から、

「地球人類が共生できるつながり社会」に

2010年8月10日 毛利正道

「パーソナル社会」

日本を含む現代世界のほとんどの国では、企業が物・文化・エネルギーなどの「商品」をできるだけ多く売ることによって利益を上げることが、社会の重要不可欠な要素になっています。そこで、商品をできるだけ多く売るには、なるべく多くの人間から買ってもらう必要があります。究極は、すべての人間一人ひとりが、無数の商品を買って持っている状態です。現代日本は、その状態にどんどん近づいているように見えます。

例えば・・・

部屋です。昔はかなりの人間が数人で長屋などの一つの部屋に住んでいましたが、商品単位としての一つの家かアパート一区画に数人で住むが部屋は一人一部屋とは限らないという現在もまだ支配的な形態を通過しつつ、ワンルームマンションなど一人が一区画に居住する、ないし、普通の人が一人ないし二人でたくさんの部屋がある住居に住んでいるようになりました。

テレビは、50年前頃から商品として出始めましたが、始めの頃は、一家に一台でした。それが、今では一人一台にかなり近づいています。複数の部屋に一台ずつ置いて、観る人がTPOに応じて観ることも稀ではないかもしれません。

車もそうです。一人で数台保有している人も稀ではなくなりました。

電話もそうです。一家に固定電話一台の時代から、今では携帯の普及でほとんど一人一台になり、一人で複数持っている人も珍しくありません。

映画についても、昔は映像ソフトを個人が持っていることなどほとんど無く、みんな映画館で観たものですが、今では、ソフトを買うかレンタルするかして個人で観る人がかなりいます。

食べ物も、たくさん作ってそれを数人で食べるパターンから、近くにコンビニがあればもちろん、なくても弁当を運んできてもらって、あるいは家族がいる家でも孤食で、それぞれ一人で食べるようになりつつあります。

コンピューターも、昔は一企業に一台あれば良いほうでしたが、今では、一家に一台から、一人で一台ないし複数台になっています。

仕事（労働力）はどうでしょうか。ここに同様の視点で入れるべきかはともかく、昔は、一人の人が一生涯に携わる仕事は多くの場合一つでしたが、今ではそんなことは稀になり、同時に2～4の仕事に携わっている人も珍しくありません。

このような「パーソナル社会」では、昔の社会に比べて、商品が種類・個数ともに爆発的に売れて、売れたことによる利益の総額も大きく伸びています。その総体がGDPに近

いものとなり、経済成長の根幹となるわけでしょう。

他方、良く言われる一家4人の平均家庭単位で、50年前と現在の姿とを比べてみた場合、4人の生活にかかっている生活費の総額は、どうなっているのでしょうか。価格競争があるため爆発的と言えるかどうかはよく分かりませんが、大幅に増えていることは間違いのないでしょう。例えば、一家4名の携帯電話料金の総額は、昔の固定電話一台のそれと比較にならないでしょう。

このような現代社会、とりわけここ日本では、次のような、問題とすべき特徴があるように見えます。

人間一人当たりの生活費が高くなっているため、それに比例して収入も伸びないと、暮らしていけない人が増えて来ます。現在、このような人が増えていることには異論がないでしょう。

企業が競って多くの商品を多くの人間に売ろうとするため、販売価格を下げようとし、そのため、人件費・原材料費などの経費を下げ、国内でギリギリまで落としつつ、経費が低い外国（中国・東南アジアからついにはアフリカなど全地球規模で）で造るようになり、国内で多くの人が働く機会を失われています（例えば、街で旗めいている「のぼり旗」も、日本の印刷零細企業が中国の企業に製造を委託すると、従来と同質のものが7割も安く販売できるとのこと、国内の従業員が大幅に不要になることでしょう）。

企業が、「我が亡き後に洪水は来たれ」という本質的姿勢で、安い経費と高い販売価格（＝その差額としての高い利益）を世界的規模で追求するため、地球温暖化による環境破壊、水・食料危機とこれによる戦争発生、多種多様な新たな病原体の発生など、地球人類の生存条件が著しく脅かされています。

他方で、個々人毎に商品を持っている状態であるため、その商品一つひとつに目をおいてみると、それを使っていない時間がかかなり多いという「壮大な無駄」が生じています。通常は、ワンルームマンション、テレビ、車、パソコンなどほとんどの物について、だれもその商品を使っていない時間がたくさんあるのです。この面で、地球資源の浪費とも言えるのではないのでしょうか。

一人ひとりがバラバラになり、今では、小学校高学年頃以降の多くの人びとが一日中誰とも口を聞かなくとも暮らしていける社会にまでなっています。日本で、他の「先進国」に比べ、子どもから高齢者まですべての年代・階層で「孤立・無縁社会＝非社会化」が著しく深まっているのは、人間関係が極めて濃かった1945年頃から現代までにあまり短期間に資本主義化が進んだという特質があると思いますが、

<http://www.lcv.ne.jp/~mourima/10.4.5nazebunka.pdf>

上記のような世界的規模での現代社会における「パーソナル化」が基底にあることは否定できないでしょう。

私自身も享受している「パーソナル社会」の居心地のよさを全否定するわけにはいきませんが、現代日本は、「パーソナル社会」における上記のようなマイナス面が一挙に顕在化している由々しき事態にあると言えるように思えます。とすれば、顕在化している個々の

問題点に対する対策（例えば、 については社会保障、 については派遣禁止法、 についてはグローバル化に対する規制・課税、 についてはルームシェアなど共同使用、 については自殺対策等）も対症療法としては必要ですが、その根底にある「パーソナル社会」自体に大きなメスを入れ、根本的対策を立て実行していく必要があるのではないのでしょうか。その根本的対策とは、人間のすべての生活部面において、「つながり社会」を築いてゆくことだと思っております。個々人の人格・人権の尊重という前提は決して侵すことなく。

私のイメージする「つながり社会」の到達点とは、例えば・・・

アパート：ワンルームでは各戸に大きな費用が掛かる水回りが付くため、賃料は安くならない。一人用3畳部屋3つと共用部屋・水回りを持つ、3人用1賃貸区画を持つアパートを建設する。そうすれば家賃が下げられる。行政が必要な財政的・精神的・広報での支援をする（この点は、以下同じ）。

1～2人だけが住む住宅：空いている部屋を第三者に賃貸する。必要なら改造する。

知人同士がグループホームを保有したり、賃借したりする。

一般住宅：ご近所数軒が集える部屋を備える住宅を増やす。

車：保有している人から空いている日時に有償で借り上げ、車を必要としている人に有償で貸与する事業を行政か民間が行う。また、必要な人がレンタルする場合、3名以上で一緒に借りる時にはレンタル料を安くする。3名以上で共同で購入する場合に支援する。

旅行：3名以上でツアーするときには、費用が安くなる。

その他：いろいろな商品（ソフトなものも含む）についても、3名が一緒に買ったり借りたりする場合に、安くなるようにする。今も、高校生3人で映画を観ると大幅割引になる仕組みが一部にあります。

仕事：北欧のように、ほとんどの人が午後5時には仕事を終えている。現在、過労死しそうになりながら行っている仕事をワークシェアリングすればできる。

アフターファイブ：社会構成員ほとんど全ての手が空き、文化・スポーツなどいろいろな場に、老若男女が多種多様に集まっている。

家庭菜園：全国各地でもっと普及させ、3名で一緒に借りる場合はより優遇する。

3名で起業：今、新人弁護士の就職先がないと問題になっていますが、私からみるに、新人3名が一緒に始めから地方都市のアパートの一室で開業すれば、互いに相談できる、依頼者に対して謙虚になる、経費節減になる一方必要な文献は充実できる、等の利点から、十分やっていけると思っています。弁護士に限らず、「一人親方」が典型であった士師業の多くに当てはまるのではないのでしょうか。

このほか：各人が、自分の関係する分野で以上のような発想を生かすとするとどのようなことになるのか、そのためにはどのような政策的支援が必要なのか、周りの人々と考え合ってみていただけませんか。

ところで、このような「つながり社会」だと、（ソフトを含む広義の）商品の売れ行きが落ちて、経済不況に陥ってしまうのではないかと不安が出てきますよね。この点は、経済研究者の助けが必要だと思っています。ただ、こういうことは思います。

国民所得向上のために経済成長をめざすと、どうしても「パーソナル社会」になりがちであり、それでは地球人類の破滅になってしまうでしょうからある程度の摂生(せつせい)は不可欠です。「この程度の(高くない)国民一人当たり所得であっても十分幸せに暮らせる」、そのようにすべての国民が思える社会が目指されるべきではないでしょうか。

大金持ちと財界から溜め込み利益を吐き出させて、軍事費も削り、国民すべての生活レベルを実質的平等に接近させることはむろん必要ですが、その政策だけでは国民が将来とこれを実現する世直しムーブメントに夢・希望を抱くことは困難なように思います。

「環境破壊と貧困・孤立のパーソナル社会」から、「地球人類が共生できるつながり社会」に、とのキャッチコピーなら、環境破壊・貧困・孤立・無縁社会を憂う、日本と世界の人びとに希望と力を与えてくれそうな気がするの、私だけでしょうか。